allcinema

過去をもつ愛情（1954）

LES AMANTS DU TAGE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 113分
初公開日 1956/11/14
公開情報 東和

【解説】

４４年８月パリ解放の日、喜び勇んで妻の待つアパルトマンに帰った歴戦の勇士ピエールは愕然とする。妻は間男の真っ最中。思わず携帯していた銃の引き金を引いた。が、彼は同情され無罪となり、放浪生活に入る。今はリスボンのタクシー運転手に落ち着いているが、南米行きの船の乗船手配を周施屋に依頼中だ。そこへ英国貴族の未亡人カトリーヌが彼のタクシーに乗り、法外なチップを渡して寄こす。下宿先の葉書売りの少年の気配りで彼女の夜の観光のお伴をし、やがて同じアパートに住むようになった彼女とナザレの海岸に旅もする。が、彼女の渡した部屋の鍵は彼には負担だった。それは妻の過ちを、また再びあの苦しみを味わねばならぬ気に彼をさせるのだ。カトリーヌをつけ回すルイス警部の言動も気になる。彼は明らかに夫の事故死は彼女が手を下したものと信じている。初めは取り合わなかったピエールも、警部の鋭い心理分析を否定できず、彼女の態度に疑問点も見出す。果して彼女は彼に罪の告白をした。しかし、それが彼の心のわだかまりをある程度は晴らした。とにかく、彼女は自分と逃げる他ないのだ――。そう思い込むことで。そして一緒に南米行きの船に乗るのだが……。愛か打算か。女心の微妙をアルヌールの演技に託す他ない、ヴェルヌイユの通俗メロドラマだが、彼女がいま一つ表情に乏しく、その辺をうまく表現できていないため尻すぼみの印象。ピエールのジュランはまず順当で、警部のハワードは儲け役。何よりのお楽しみは歌姫ロドリゲスの素晴らしい美声。彼女が唄う二曲のファドは、この映画一篇よりずっと雄弁に女心を伝え、何だかアルヌールの立つ瀬もないのだ。音楽監修はＭ・ルグラン。

【クレジット】

監督	アンリ・ヴェルヌイユ	Henri Verneuil
製作	ジャック・ゴチエール	Jacques Gauthier
原作	ジョセフ・ケッセル	Joseph Kessel
脚本	ジャック・コンパネーズ	Jacques Companeez
撮影	ロジェ・ユベール	Roger Hubert
音楽	ミシェル・ルグラン	Michel Legrand
出演	フランソワーズ・アルヌール	Francoise Arnoul
	ダニエル・ジェラン	Daniel Gelin
	トレヴァー・ハワード	Trevor Howard
	アマリア・ロドリゲス	Amalia Rodrigues
	ジネット・ルクレール	Ginette Leclerc
	マルセル・ダリオ	Marcel Dalio

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.